

「おやこの距離

—不登校・ひきこもりの現場から—



開善塾教育相談研究所 所長

藤崎 育子 先生

九月二日(金)、しこちゅくホールにて、令和4年度四国中央市あったか子育てセミナーを開催いたしました。今回は、埼玉県狭山市の開善塾教育相談研究所長の藤崎育子先生を講師にお招きし「おやこの距離—不登校・ひきこもりの現場から—」と題して講演いただきました。藤崎先生は全国各地の不登校ひきこもりの家族・当事者への支援だけでなく、学校現場への研修等にも積極的に取り組まれており、貴重な経験に基づいたお話をしてくださいました。

経験することの大切さ

「人の立場になって考えられる人になってほしい」という言葉をよく耳にします。そうするためには、なるべく小さなうちからお手伝いをしてもらうことが大切です。お金やゲームなどを報酬にするのではなく、お手伝いを通して「自分が動く人が喜ぶ」ということを伝えてほしいのです。また、お手伝いは兄弟がいたら同じことはさせないようにします。上の子にはグレイドの高いお手伝いをお願いし、上の子が下の子に教えることで、お手伝いのスキルが上がるだけではなく、上の子の自信も補償され、子どもたちそれぞれの成長につながります。子どもたちの中には、お母さんに「なんでコーラ買ってないんだ！」などと言って怒る子もいます。そのような子たちは、買い物を経験していないために、その大変さを理解していないことがあります。経験ですごく大切なことです。

開善塾では、不登校やひきこもりの当事者を対象に合宿をしています。そこでは様々な体験を通して子どもたちが少しずつできることを増やしたり、自信をつけたりしています。合宿では一緒に料理を作ったり食べることもありますが、必ず一緒に買い物に行き、なるべく重い物や衣食住を整えることの手続きや大変さを身をもって体験してもらっています。

必ず君を守ってあげる

先生方に伝えたいことは、学校に行くことのハードルが高くても、「チャイムと一緒に教室に入り、先生と一緒に教室

から出る」など子どもが少しでも安心してできる方法について考えてみてほしいということです。本好きな図書室、運動が苦手なら保健室など、学校の中で子どもたちの居場所になりそうな場所を考えてみてください。また、学校に行けない子どもたちにアタックし続けてほしいと思います。続けていけばどこかにつながるかもしれません。子どもたちは「必ず君を守ってあげる」という先生がいると、学校に行けることがあるのです。

今の姿を認めてほしい

子どもが不登校になると、親自身が「うまく子育てできていない」と感じることも多いようです。そんな中、子どもたちが「昔はよくできていたけど、やないだからさ」と言えるはず」と自信を取り戻してあげようと声をかけることもあります。また、家には小さい頃の写真や賞状やトフィーなどが飾られている場合もあります。私が訪問相談に伺ったとき、それらを片付けてもらうように親御さんにお願いをしています。子どもの今の姿を認めてほしいからです。また、昔の姿をいかったときではなく、今目の前にいる子どもと今このときを楽しく過ごしてほしいと思うからです。小さいうちはいっぱい甘えさせてあげてください。大きくなっていくと甘えさせるのが難しくなるので、一緒に温泉に入ったりドライブをしたりするのがおすすめです。子どもたちの経験を増やすことで、子ども本人がこだわっていることを少し緩和したり、相手の大変さを想像しながら人と関わったりできるようになります。不登校やひきこもりの状態にある子どもたちはいきなり集団の中で経験することは難しいため、まずは1対1から少しずつ「できる」を積み重ねていってほしいと思います。

子ども若者発達支援センター会報

パレット・レター

四国中央市子ども若者発達支援センター
TEL0896-28-6029 FAX0896-28-6030
palette@city.shikokuchuo.ehime.jp



カラー版のパレット・レターはこちら



最新の情報は公式ホームページです。

Palette又はパレット・レターに関するお問い合わせは上記まで。パレット・レターの表紙になってくれるおさんを募集します。ご協力いただける方は、Paletteの職員または上記までご連絡ください。

Palette Letter

happy

HALLOWEEN

October 2022
No.36

“コモちゃんクラフト”を開催しました！

[東部 (西部) こどもホーム]



六月には、東部・西部子どもホームそれぞれに、薦田さんを招いて「コモちゃんクラフト」を開催しました。東部・西部子どもホームでは恒例の行事ですが、コロナウイルス感染症の影響でしばらくお休みしていました。久しぶりのコモちゃんクラフトに、子どもたちもワクワクです。今回は森からのおくりもの、どんぐりや丸木を使って「自分だけのたからもの」をテーマにバッチ作り挑戦です。それぞれの感性を活かし、素敵な作品が仕上がりました。初めて参加する児童も、久しぶりに参加する児童も、熱心にコツコツと作品作りを楽しみ、出来上がった作品に満足そうな表情が見られました。

カノンさんの“音楽遊び”を開催しました！

[東部 (西部) こどもホーム]



夏休み期間中、東部・西部子どもホームそれぞれに「NPO法人カノン」さんを招いて「音楽遊び」を行いました。子ども達はカノンさんや職員とともに、楽器などの道具を使い、音楽を楽しみました。カノンさんの声掛けにより、道具の準備や片づけを行うことで、音楽を通して人と関わり、「楽しい」という時間を過ごすことができました。その他、指遊びをするなど、いつもとは違う活動を楽しんでいました。聞き覚えのある音楽ではリズムに合わせて体も動き、自然と笑顔になっていました。



“職員募集”

～会計年度任用職員～

①療育等指導員

学齢期児童の療育支援等
※特に資格は必要ありません

②作業療法士

感覚統合療法等必要な支援

③相談支援専門員

相談支援業務全般

【お問合せ】
人事課 ☎28-6004



九月二十二日(木)、四国中央消防署立ち合いのもと、今年度一回目の「消防訓練」を行いました。今回は、出火場所を例年の調理室から多目的室に変更するなど、少し工夫をして実施しました。普段と違う初期消火などで戸惑う場面もみられましたが、皆真剣かつ落ち着いて訓練に取り組むことができました。雨天のため、残念ながら外で消火器での消火訓練は実施できませんでしたが、いざという時に落ち着いて消火活動や避難誘導ができるよう、今後も定期的な訓練の実施と消防設備等の確認や点検など行っていききたいと思います。

“消防訓練”を行いました！

[管理係]

“幼・保・こども園管理職研修会”を開催しました！

[発達支援係]



八月五日(金)、特別支援教育士スーパーバイザーの渡部徹先生を講師に、オンラインにて「愛着の根底にあるもの」という内容で「幼・保・こども園管理職研修会」を行いました。当日は、市内の幼稚園・保育所、認定こども園の管理職の先生方二十名とパレットの職員十三名が参加し、求められる園の役割と子どもへのかわり方について、深く学ぶ機会となりました。パレットでは、このような研修のほか、課部先生同行による学校教育課や保育幼稚園課との合同巡回相談を通して、ケースから考える研修等を随時実施しており、所属機関をはじめとする地域支援の充実に向けて、職員の資質向上に努めています。今後も引き続き、このような研修の機会を大切にしていきたいと思っています。



“運動会”を開催しました！

[児童発達支援センター]

十月七日(金)児童発達支援センターを利用している未就園のお子さんと保護者のみなさんと運動会をしました。プログラムの内容は、リズムや運動遊び、親子のふれあい遊びや絵本など、日ごろの保育のなかで取り組んでいる活動を中心に組み立てました。いつもと変わらない雰囲気なかで、親子でリラックスして参加していただけたかと思えます。終了後、おみやげをもらい、みんなにここの笑顔でパレットを後にしました。

